

意見概要

1. 宝塚市,西宮市水道源水の実態 に付いて(資料の要望)

2. 水道利用の実態を踏まえた利水 容量の活用

1. 宝塚市,西宮市水道源水の実態に付いて(資料の要望)

千苅ダムの治水活用に対する要点

1. 水の融通システムを拡張すること
2. 新たな水源、特に地下水開発の可能性を検討すること

具体的な検討事項

1. 地下水帯の断水を絶対起こしてはならない
2. 広域的な地下水資源探査のため、地下水涵養機構、水循環・水収支の調査、シミュレーション解析を行うこと
3. 開発コストの合理化を念頭に、現在の浄水場近傍の開発を検討。

目標揚水量: 1万m³/日

地下水(井水)を水源としている浄水場

宝塚市 : 川面浄水場、小林浄水場、亀井浄水場、小浜浄水場

西宮市 : 中神殿浄水場、武庫川浄水場、鳴尾浄水場

- ・ 地下水依存率はどれくらいか。(古いデータでは 1/3強)
- ・ 表流水の新たな開発は困難。
- ・ 地下水にこそ開発の可能性はある。
- ・ この地下水開発は治水対応の開発である。(二義的として渇水時の緊急補給として利用できる。)

2. 水道利用の実態を踏まえた利水容量の活用

利水容量の治水転用には

- ① 計画1日最大給水量 ② 計画1日平均配水量

の正確な予測が必要である。

各市の配水稼働率 (平4, 平15, 平16、平17の資料による)

	A	B	C	C/A	C/B
	計画給水量		実績配水量	配水稼働率 %	
	1人1日最大	1人1日平均	1人1日平均		
宝塚市	479 L	383 L	311 L	64.9	81.2
西宮市	598 L	478 L	343 L	57.4	71.8
尼崎市	444 L	386 L	351 L	79.0	90.9

(続き)

[参考] 自己水源率

宝塚市：87%、西宮市：37%、尼崎市：0%（主たる水源は阪神水道企業団より）である。

仮に稼働率を 80% とすると

青野ダムの現況利水容量 930万m³ → 744万m³

千苅ダムの現況利水容量 877万m³ → 702万m³

のように、現況利水容量を小さく見積もることができる。